

放課後等デイサービス関係職員研修

次第

日時：2022年6月27日（月）

午前9時から12時

場所：地域福祉センター希望の家

1 ガイダンス

9:00～9:15

小西秀和（京都市放課後等デイサービス支援事業）

2 研修「対話を通して知り合おう ひとりひとりの現在地」

9:15～11:55（10分程度の休憩時間を設けます）

○世話人／進行

坂口聡さん・並川明日香さん

（放課後等デイサービス「そらいろチルドレン」）

○登壇者

高梨沙世さん（放課後等デイサービス「暖太」）

藤賀一暢さん（社会福祉法人「西陣会」）

寺尾藍子さん（放課後等デイサービス「学童ひろば」）

○グラフィックレコーディング

肥後祐亮さん

3 事務局より

11:55～

令和4年度放課後等デイサービス関連職員研修 ガイダンス

日時：2022年6月27日(月)9:00~9:15

場所：地域福祉センター希望の家

① はじめに

② 参加者について (資料①)

「通し受講枠」と「各回聴講枠」

③ 研修の全体像 (資料②)

「」ではなくて、「」を学ぶ！

④ イソップ寓話「3人のレンガ職人」(資料③)

自分がこの研修に参加したのは、

「」という目的があるから。

⑤ 研修の目的は？

この研修を受けるのは、事業所にとって「」な目的がある？

この研修を受けるのは、子どもにとって「」な目的がある？

この研修を受けるのは、●●●にとって「」な目的がある？



通し受講枠の方へ

○グループについて

- ・原則、本日のグループで最終日まで受講していただきます。

○本日決めていただきたいこと

- ・グループ内のコミュニケーションツールの決定と、その連絡先の交換をお願いします。
- ・本日のリーダー（各回持ち回りをお願いします）を決めてください。

○各回研修終了後に

- ・グループで感想や意見、質問などをシェアしてください。
- ・それらの内容をまとめて、リーダーが事務局に報告してください。
※報告内容は、①グループ名、②感想や意見、③質問（あれば）、です。
- ・報告先はコチラです。→



- ・事務局にご報告いただいた内容は、次回研修時に通し枠受講者全員でシェアします。

各回聴講枠の方へ

○グループについて

- ・ぜひ、参加者同士のコミュニケーションや名刺交換等の場にもご活用ください。

○研修終了後に

- ・お手元のアンケートにご協力よろしくお願いします。

令和4年度 放課後等デイサービス関係職員研修

資料②

※新型コロナウイルス感染症の状況により、今後、日時等を変更することがあります。
 ※講師名及び内容は変更することがあります。

日程	講義名(仮題あり)	講師	内容	会場	
① 令和4年6月27日 9:00~12:00 (受付開始:8:30から)	ガイダンス 月 対話を通して知り合おう ~ひとりひとりの現在地~	事務局 坂口 聡 氏 (他、現役の支援者の みなさまにご登壇いた だきます)	放デイ支援事業受託法人 他 放課後等デイサービスそらいろ チルドレン 代表	令和4年度研修における研修全体のガイ ダンスを行います。 放デイで働く仲間たちと知り合い繋がるこ とや、放デイの在り方をじっくり話し合うこと を目的としたグループワークを行います。 (グループワーク)	地域福祉セン ター希望の家
② 令和4年7月6日 9:00~12:00 (受付開始:8:30から)	基礎研修 ~児童福祉法、放デイガイドラ イン~ 水 性の理解について	木戸 玲子 氏 平木 真由美 氏	修徳児童館館長 京都市児童館学童連盟理事 西総合支援学校 特別非常勤講師	発達支援が必要な児童である前に、“一人 の子ども”として向き合っていくことの大切 さについて、放デイの社会的責任と専門職 としての倫理から学びます。 (講義) 支援者として必要な性の基礎知識や性の 理解について、講義やグループワーク、展 示から学びます。 (講義、グループワーク、展示)	
③ 令和4年7月11日 9:00~12:00 (受付開始:8:30から)	特別支援教育について 月 障害と発達の理解について	楳山 主席指導主事 小島 専門主事 大橋 良輝 氏	京都市総合育成支援課 児童発達支援センター洛西愛 育園 園長	特別支援教育の取り組みやその役割を知 ることで、学校と放デイの連携のあり方 について学びます。 (講義) 子どもたちを障害や発達という視点から理 解するための基礎的な知識や考え方と、 その知識を日々の支援に活かすための手 法について、講義とグループワークにて学 びます。 (講義、グループワーク)	
④ 令和4年9月7日 9:00~12:00 (受付開始:8:30から)	児童発達支援センターでの取り 組み ~児童発達支援から放 課後等デイサービスへ~ 水 放課後等デイサービスから成人 の支援について	中塚 雅子 氏 松尾 浩久 氏	児童発達支援センターこぐま園 園長 社会福祉法人菊会 理事	就学前の子ども達への療育では、“何を大 切に”取り組み、“就学に向けての支援”を どのように行っているのかを知り、放デイ への支援に繋がります。 (講義) 高校卒業後の就労や生活支援の制度を 中心に、本人や家族へのサポートをどのよ うに実施しているのか等、放デイが卒後の 支援として引き継ぐべきポイントについて 学びます。 (講義、グループワーク)	
⑤ 令和4年9月27日 9:00~12:00 (受付開始:8:30から)	虐待防止について 火 個別支援計画の読み方につい て	後藤 弘雅 氏 田村 一英 氏	京都市第二児童福祉センター 長 児童発達支援事業所パーチェ 児童相談支援員	虐待の定義や、虐待の疑いがある時の対 応方法と放デイの役割について、事例を通 じて学びます。 (講義、グループワーク) 放デイにおける個別支援計画の重要性や 個別支援計画に基づいた支援のあり方、 記録の取り方を知ることで、必要な支援の ポイントを学びます。 (講義、グループワーク)	
⑥ 令和4年10月18日 9:00~12:00 (受付開始:8:30から)	社会福祉としての放課後等デイ サービスとその現状について 火 フィードバック	森田 考紀 事務局	京都市子ども家庭支援課 発達支援担当係長 放デイ支援事業受託法人 他	京都市における放デイの現状と、福祉 サービスとしての放デイの位置づけを学び ます。 (講義) 本研修の終わりに、これまでの学びを通し て得た気づきや変化と、研修受講後に自 事業所で取り組んだことやこれから取り組 みたいこと等の共有を行います。	

45 目標と目的② 目的の意味性

目標に働かされるのか・目的に生きるのか

レンガを積む3人の男 彼らの目標・目的は何だろう？

中世のとあるヨーロッパの町。建築現場に3人の男が働いていた。「何をしているのか？」ときかれ、それぞれの男はこう答えた。

「レンガを積んでいる」。最初の男は言った。2人めの男が答えて言うに、「カネ(金)を稼いでいるのさ」。そして、3人めの男は明るく顔を上げて言った——「後世に残る町の大聖堂を造っているんだ！」

3人の男たちにとって目標は共通です。つまり、1日に何個のレンガを積むとか、何ミリの精度で組み上げるとか、何月何日までに聖堂を完成させるとか。

そのように目標は外形的なものであり、他者が一律に与えることができます。しかし、目的(=意味を含んだもの)は他者から与えられません。「なぜそれをやるか」は、自分で見出すものだからです。

実際、3人の目的はばらばらです——1人めの男は目的を持っていません。2人めの男は生活費を稼ぐのが目的です。3番めの男は歴史の一部に自分が関わり、世の役に立つことが目的となっています。

何十年と続く職業人生にあって、他者の命令・目標に働かされるのか、自分の見出した

意味・目的に生きるのか——これは大きな一点です。

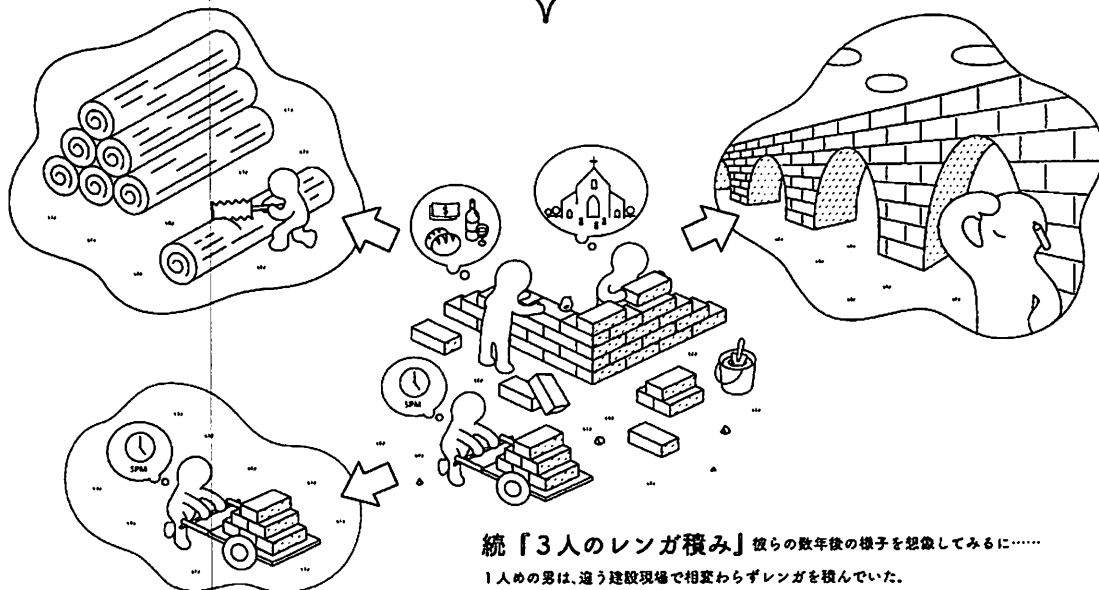
別の言い方をすれば、関わる仕事を「自分ごと」としてとらえられるかどうか。「他人ごと」になっている仕事のもとでは、たぶん目的はそこにはなく、目標に働かされている状態になっているでしょう。

	外形的 目標	内容的・意味的 目的
第1の男 「レンガを積んでいる」	【積み上げ目標】 1日に●個のレンガを積む	特になし (聖堂建設は「他人ごと」)
第2の男 「カネを稼いでいるのさ」	【精度目標】 ●ミリ以内の精度で積む 【納期目標】 ●月●日までに聖堂を完成させる ……など	食うため (聖堂建設は「他人ごと」)
第3の男 「大聖堂を造っている！」		後世に残る建設事業に加わるため (聖堂建設は「自分ごと」)

見えるだけ

目標は他者から与えられることがあっても、目的は他者から与えられない。それをやる意味は自分で見出すものだから。目的はその人独自のものになる。その仕事は「自分ごと」か「他人ごと」か。

数年後、男たちはそれぞれ違う現場で働いていた。
目的の持ち方の違いが彼らの行き先の違いを生んだのだった。



続「3人のレンガ積み」彼らの数年後の様子を想像してみるに……

1人めの男は、違う建設現場で相変わらずレンガを積んでいた。
2人めの男は、木村切りの現場でノコギリを手にして働いていた、「カネを稼ぐためなら何でもやるさ。こっちはほうが日銭はいいけど、作業ノルマがきついね」。
3人めの男は、その真摯な働きぶりから町役場に職を得て、「いま、水道計画を練っている。あの山に水道橋を造って、町が水で困らないようにしたい！」と喜んで働いていた。